

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書9章57-62節＞

1 イエス様を信じる決心をするには厳し過ぎる内容？ そうではない。

ここを読んだら「イエス様に従う覚悟が問われている」と思うでしょう。さらに、「父の葬儀を挙げてから、家族に別れを告げてから従うのはだめ」という厳しさに驚き、「これがキリスト教の信仰なら自分は信じるのは無理だ」と思う人も多いでしょう。昔私もそう思いました。しかし今はそう思ったことは正しいとは思いません。なぜでしょうか？

2 よく読むと、皆、内容が違う。主は一人一人を理解しておられる。

最初に「どこへでも従います」と告白した人はどうなったのでしょうか(57-58)。イエス様は「あなたは分かっていない」と示して、彼を従わせられなかったと考えられています。次の人はイエス様の方から「従って来るように」と呼びかけられましたが「父の葬儀を挙げてから従う」と答えました。当然イエス様は叱られるだろうと思いますが、そうではなくてむしろ伝道するよう励まされました(59-60)。彼は従ったのではないのでしょうか。最後の人は「従います」と自分から言ったのに「まず家族に告げてから」と加えたのでイエス様から一番強く戒められます(61-62)。もちろん従わせられなかったでしょう。イエス様はその人自身以上に一人一人を深く理解しておられ、救いに向けて、その時の各人に一番ふさわしい内容を示して下さったのではないのでしょうか。

3 牧師就職式で勧告した、献身者に求められる厳しさ？ 否、幸い！

先日、牧師就職式で勧告しましたが、そこで話したことを思い出しました。「①牧師には、“良い羊飼いは羊のために命を捨てる”(ヨハネ10:11, 15)と語られたイエス様に倣って命をかけて福音を語る覚悟が求められる。②牧師がそのように思いながら福音を語る時に、聞く人々にもその福音の恵みが伝わる。③そして、その福音に生きる者たちの群れである教会に加わる決心が与えられる」、そう話しました。今日の個所で主イエスと対峙する人々は、今の時代で言うところの献身して牧師になる者たちであり、ですから厳しい内容を語ったのです。しかし、誰でも主イエスに従って生きる幸いが分かって来ると、厳しいと思ったことは正しくなかつたと分かって来るのです。主イエスは、「何よりもまず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば必要なものは全て与えられる」(マタイ6:33)と言われました。この御言葉は本当なのです。キリスト教の信仰とは、この幸いと出会い、この幸いの中を生きることなのです。